

① 安全確認

① 安全確認

誰かが突然倒れるところを目撃したり、倒れているところを発見した場合は、まず周囲の状況が安全かどうか確認します。



② 反応の確認

② 反応の確認

傷病者の肩をやさしくたたきながら大声で呼びかけたときに、目を開けるなどの応答や目的のある仕草があれば反応ありと判断します。反応があるかないかの判断に迷う場合は、「反応なし」と判断してください。

③ 助けを呼ぶ

③ 助けを呼ぶ・119番通報、AEDの手配

- ・大きな声で
- ・相手は指名する



④ 呼吸の確認

④ 呼吸の確認

・呼吸は胸と腹部の動きを見て「普段どおりの呼吸か」を10秒以内で確認する。

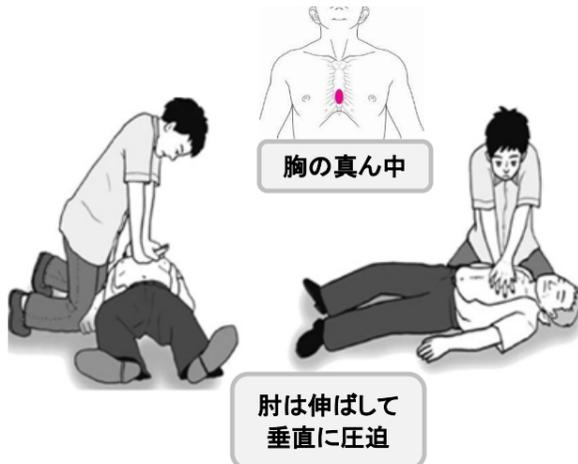


・「普段どおりの呼吸」がない場合、死戦期呼吸(いわゆる喘ぎ呼吸)を認める場合、約10秒かけても判断に自信が持てない場合やわからない場合は心停止とみなし、胸骨圧迫を行ってください。

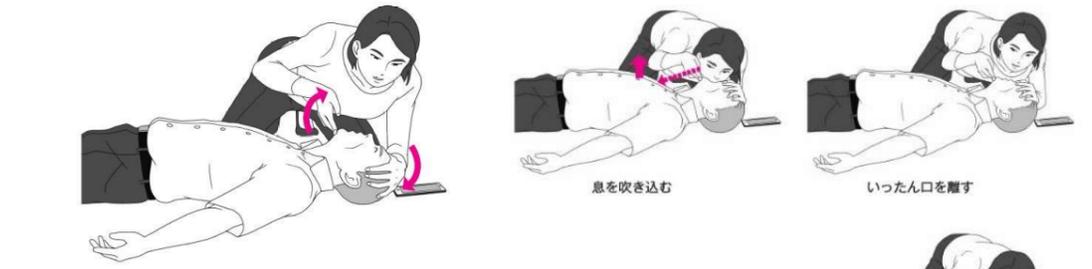
⑤ 胸骨圧迫

⑤ 胸骨圧迫

・直ちに胸骨圧迫を開始する。
強く(成人は約5cm、小児と乳児は胸の厚さの約1/3)
速く(100~120回/分)
絶え間なく(中断を最小にする)
・胸骨圧迫の方法
成人:両手
小児:両手(体格により片手)
乳児:手指2本
・人工呼吸ができる場合は30:2で胸骨圧迫に人工呼吸を加える。
人工呼吸ができないか、ためらわれる場合は胸骨圧迫のみを行う。



⑥ 気道確保・人工呼吸



⑥ 気道確保・人工呼吸(省略可)

・約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を2回吹き込む。
・子供の場合は呼吸が悪くなって心停止になることが多いため、できるだけ早く人工呼吸を行う。(子供の場合は人工呼吸の必要性が高い)

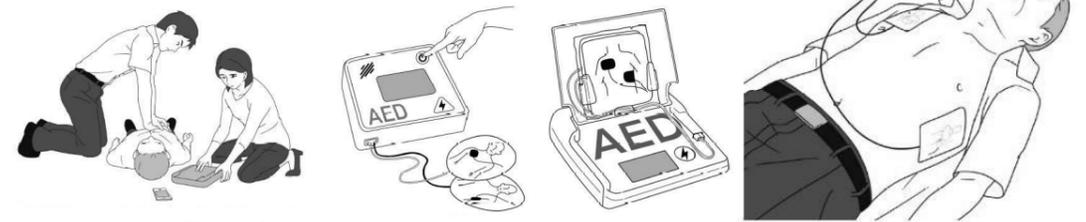
口対口人工呼吸の要点
・胸が上がるのがわかる程度
・約1秒間かけて吹き込む
・吹き込みは2回まで



⑦ AEDの操作

⑦ AEDの操作

・AEDの音声に従う



⑧ 心肺蘇生法の継続



AEDパッドについて

小学校に上がる前の子供と乳児に対しては、**未就学児用パッド(従来の小児用パッド)**を用いる。パッドがないなどやむを得ない場合、大人用パッドで代用する。

・電極パッドを貼る場所に医療用の植え込み器具がある場合には、パッドを離して貼る。

・貼付場所の薬剤パッチ等は取り去り、貼ってあった部位を拭き取ったあと電極パッドを貼り付ける。

・傷病者の体が濡れている場合には、胸の水分を拭き取って、電極パッドが濡れた部位に接触しないように貼り付ける。

2分毎にAEDから音声案内があります

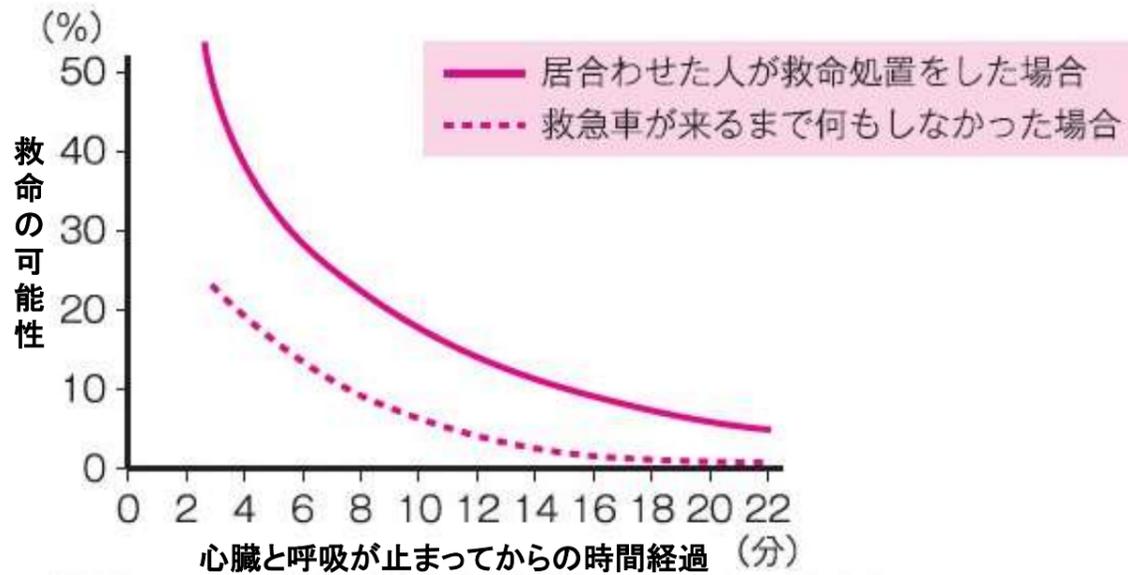
自動で電気ショックするオートショックAEDも販売されている。



心肺蘇生法の中止について

①救急隊員と交代したとき
救急隊員が見えたら救命処置をやめるのではなく、心肺蘇生法を中断することなく、救急隊員に交代するまで継続してください。
②傷病者に普段通りの呼吸が戻り、呼びかけに反応したり、目的のあるしぐさが認められたときは、心肺蘇生法をいったん中止し、傷病者を観察しながら救急隊を待ってください。この場合でもAEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておいてください。

応急手当と救命曲線



救命の可能性と時間経過

救命の可能性は、時間とともに低下しますが、救急隊の到着までの短時間であっても、現場で救命処置をすることで高くなります。

参考文献及び引用文献:救急蘇生法の指針2020(市民用)・JRC蘇生ガイドライン2020
画像提供:JEITA 一般社団法人電子情報技術産業協会



応急手当に関する問い合わせ先
丹波市消防本部(署) 救急第1・2係
電話 0795-72-2255

HYOGO
TAMBA
FIRE DEPT.



救命の連鎖

心停止の予防

- ・「体が少しおかしいな」と思った時点で救急車を要請することによって、心停止に至る前に医療機関で治療を開始することが可能になります。

早期認識と通報

- ・心停止を早期に認識するためには、突然倒れた人や、反応のない人を見たら、ただちに心停止を疑うことが欠かせません。反応の有無の判断に迷った場合でも勇気を出して大声で叫んで応援を呼び、119番通報を行って、AEDや救急隊が少しでも早く到着するように努めます。

一次救命処置(心肺蘇生とAED)

- ・心臓が止まると10秒あまりで意識が消失し、そのままの状態が続くと脳の回復は困難となります。

二次救命処置と心拍再開後の集中治療

- ・救急救命士や医師による薬剤、気道確保器具を用いた二次救命処置を行い、傷病者の心拍を再開させることを目指します。
- ・心拍が再開したら、病院での集中治療により、脳の障害を防ぎ、リハビリテーションで心身の機能回復を促し、社会復帰を目指します。